

昭和のテレビ物語：第8話【少年ジェット】

2022.10
元句大学笑学部 毛減狂寿(高橋揚一)



ミシミレドレツレレ、シッシシラソドッドド、フィフイ〜イ。毛減先生今晚は。
やあ今晚は、元気かね？ 何でも考えかんでも知って、何でもかんでもやってみよう。さて今日は…。

♪ 勇気だ力だ 誰にも負けないこの意気だ ヤア 白いマフラーは正義のしるし その名はジェット少年ジェット 進めジェット少年ジェー
ト A・B・C♪

最後は「A・B・C」ではなく「J・E・T」の聴き間違いだった。

昭和30年代の小学生に「ジェット」の綴りが「J・E・T」だという知識はなく、カッコ良い英語として「A・B・C」に勝手に聞こえてしまったのだろう。

♪ 明るく元気で正しい心 如何なる困難危険を越えて 少年ジェットは今日も行く♪

河原で愛犬シェーンとくつろぐ場面。ピーナッツを投げてシェーンが口で受け止め、スクーターに乗って走り出す。サザエさんの最後の場面がピーナッツを投げて口で受け止めて「ふんがっふっふ」だったのが「じゃんけんぽんウフフ」に改められるよりはるか昔のことである。

提供はS&B食品。初期の頃は最後に悪役たちと一緒に楽屋でカレーを食べるCM。プロレスラー俳優の鉄人騎士が「おかわり」と言って力瘤をポクポクさせ、少年ジェット以下皆が「わーすごい」といった感じで番組は終わる。

この場面を真似して、当時の子供たちは家の食卓で「おかわりポクポク」と言って力瘤を出していた。

当時S&B食品から販売された「S&Bモナカカレー」は、カレールウをモナカの皮に包んだユニークな商品。もち米で作ったモナカの皮の風味とトロミがカレーの味を引き立てた。

円筒形の大きな缶が家にあることが少年たちの誇りでもあった。立川談志によるCMでさらに人気を博している。

少年ジェット本人は連載途中でキャストが交替したが、悪役の首領は継続して高田宗彦というハーフの役者が演じていた。独特の訛りが印象的で「うーむゼットめ」との台詞が特徴。雰囲気からソロバンと「さいざんす」で『アベック歌合戦』の司会を務めたトニー谷だと思えたが、勘違い。

初期の鉄人騎士の巻ではスパイのジェームスという役名、次は紅さそり、最後はフランスから来た怪盗なのに名前はブラックデビル。

紅さそりが毒入りジュースを与えて手下にした遊園地で働く青年は芸人一家に生まれ、アニマルズの「悲しき願い」や「あしたのジョー」主題歌を歌った尾藤イサオのように見えたがこれも勘違いで無名の役者だった。

唯一有名となったのは、子役として初回から出演していた和泉雅子。彼女も女優や歌手から冒険家や僧侶に転身してしまっただが。

ところで、少年なのにスクーターに乗ったり「スーパーコルト」という麻醉銃を所持していたり、そういった点は同時期の『まぼろし探偵』や『月光仮面』や『七色仮面』にも共通する。少年ジェットの最大の武器は「ウー、ヤー、ター」と叫んで敵に旋風を送る「ミラクルボイス」という技。テレビ以前から掲載の漫画『ぼくら』誌では最初は「ウォー」という叫びだったが。



少年ジェットと愛犬シェーン



ジェームスと鉄人騎士集団



S&B モナカカレー CM



紅さそり



ブラックデビル



ミラクルボイス

以上